

ばんけい

教育ほんといっしょ

かわら版

こみち
教育の小径 No.145
2020 November
11月号

(一財)総合初等教育研究所参与

北 俊夫先生

今月のことば

いっすんむし
一寸の虫にも
こぶたましい
五分の魂

どんなに小さく弱いものにも、それ相応の意地がある。だから決して侮ってはならないということですよ。

「トイレ」を教材に教育

- 最近学校では、トイレの改修がきっかけになって、トイレに対するネガティブなイメージが変わりつつあります。トイレが清潔な空間に変わってきました。
- トイレの清掃を通じて、ものを大切に、人に優しく接しようとする心を磨くことができます。トイレは人間形成の大切な教材です。

今月のうるしの日
記念日 (11月13日)

日本の伝統工芸である「漆」の美しさを知ってもらおうと、日本漆工芸協会が昭和60年に制定しました。この日は漆関係者の祭日でした。

トイレのイメージチェンジ

かつて学校のトイレは、いじめが行われたり子どもたちの溜まり場になったりして、ネガティブなイメージがありました。トイレのドアやカギが壊されることもありました。トイレは教師の目が行き届かないため、生徒指導上の問題が起こりうる場とされてきました。やっかいな場所だったのです。

いまでは考えられませんが、いたずらや忘れ物をした子どもにバツとして「トイレの掃除」を命じるなど、トイレにネガティブな印象をもたせる指導が行われたこともありました。

また、いつの時代も「トイレの花子さん」にまつわる怖い話や奇妙な言い伝えは、子どもたちのあいだで語り継がれているようです。

近年、4K(臭い、汚い、暗い、怖い)と言われた学校のトイレのイメージが随分改善されてきました。文部科学省でも学校のトイレ改修に関する事例集を発行しています。これがきっかけになって、トイレの改修を行う自治体が増えてきました。

ある学校では、トイレの改修に当たってどのようなトイレにしたいかを子どもたちに考えさせました。すると、入口に休憩用のベンチを置く。植木や

花瓶を飾る。人の動きで電灯を付けたら消したりするなどのアイデアが出されました。トイレは子どもたちの要望や意見を最大限取り入れて設計されました。トイレの清潔を維持するため、清掃の方法を床に水を流して洗うウエット方式から、モップや雑巾などで拭き取るドライ方式に変えました。

トイレが改修されたあと、子どもたちは以前と比べて、トイレを綺麗に使うようになったと言います。「自分たちのアイデアで作られたトイレ」という意識が働いているからでしょう。

たかがトイレですが、トイレには人々の意識と行動を変え、健全な人間形成につながる教材としての大切な価値があるのではないのでしょうか。

トイレ掃除で心を磨く

多くの学校では、保健衛生の観点からトイレの掃除を子どもたちにさせていません。ところがトイレの清掃活動に取り組んでいる学校があります。

香川県坂出市のある中学校では、年に1回「清掃に学ぶ集い」を行っています。生徒たちは、自分に割り当てられた便器1個を30分黙々と清掃し、便器の中のフタまで丁寧に磨きます。先生方も生徒と一緒に取り組んでいます。この取り組みは道徳教育の充実に貢献

するとともに、学力向上にもつながっていると注目されました。

京都市には、便器や手洗い場などを掃除する「清掃に学ぶ便きょう会」があるそうです。「便きょう会」という名称がユニークです。参加した子どもは「最初、便器に触れるのは嫌だったけど、どんどん夢中になってもっとやりたくなった」と言っています。参加した住民は「子どもたちが一生懸命に磨く姿を見て大人も勉強になった」と感想を述べたそうです。(「日本教育新聞」の記事より)

学校に伺ったとき、トイレを利用する機会があります。入口にスリッパがきちんと並べられていると、学校として生徒指導が行き届いていることを実感します。トイレの使い方が子どもたちに分かりやすく掲示されていたり、手洗い場に生花が飾られたりしていると、先生方や職員の方の心の優しさが伝わってきます。気持ちがあほっこりして、綺麗に使いたくなります。

「トイレ磨きは心磨き」というフレーズを聞いたことがあります。トイレを掃除する行為には、心も磨くという効用があるようです。併せて、トイレは子どもの心を磨く教材でもあるように思います。「トイレ」のもっている教育的な価値について、各学校で話題にしてみてもどうでしょうか。

学級通信の基礎

保護者の信頼を得るコツ

学級担任は保護者からどのように評価されているのでしょうか。担任と保護者が関わる場は、家庭訪問や保護者会、授業参観日、運動会などがあります。電話での連絡もあります。保護者は学級通信を通じて、学級のことや担任の指導を知ることもできます。

こうした機会や手段をとおして、保護者は担任のことを理解し、「〇〇先生は教え方が上手だ」「子ども一人一人と丁寧に接している」「黒板の文字が少し乱暴だ」などと評価します。保護者会や授業参観日は、教師が準備と心づもりをして臨みます。保護者はそのときの状況で判断しますから、服装などの身なりも含めて、気を引き締めて対処したいものです。

学校生活の様子を知る手段は、学校で観察するほかに、家庭での子どもの言動があります。特にわが子が発する言葉から担任を評価しています。

- ・先生が「やればできるんだね。よく頑張ったよ」と褒めてくれたんだ。
- ・先生が分かりやすく教えてくれるから、嫌いだった算数がだんだん好きになってきたよ。
- ・今日、「家族の一員」のことを学んだよ。何かお手伝いしようかな。

これらの発言から、学校での子どもの生き生きとした笑顔が見えてきます。学校生活を楽しんでいる様子や担任とのよい関係が想像できます。子どもの言葉から保護者は安心感をいだき、これが担任への信頼につながります。

担任は家庭での子どもの何げない言葉と表情で評価されています。保護者の信頼を得るコツは、担任の愛情のもとに授業や活動に生き生きと取り組む子どもを育てることだと言えます。

教育の動向

法教育の実施状況

「法教育」と聞くと、中学校社会科の公民的分野の学習を連想するかもしれませんが、小学校においても深く関わっている教育課題です。法務省は全国の小学校における「法教育」の実施状況を調査しました。調査はアトランダムに選ばれた1万校を対象に、今年1月10日から2月10日に実施されました。回答率は約60%でした。

法教育を実施した教科は、社会科が58.7%と最も多く、続いて特別活動が23.4%、道徳科が6.7%でした。社会科が多いのは、4年のゴミなどの廃棄物を処理する事業に関する学習に

おいて、法やきまりについて扱い、6年で政治の働きについて学習するようになってきているためと思われます。

法律家や法務省、弁護士会など法律の専門家と連携して授業を行っている学校は37.0%でした。そこで取り上げられた主なテーマは、「法やきまり、ルールの必要性や意義」です。全体の約半数を占めました。

法教育の実施上の課題を尋ねたところ、「法教育に十分な時間を取る余裕がない」(66.2%)、「法教育の内容や授業の進め方が分からない」(36.4%)、「法教育に関する良い教材がない」(30.5%)の順でした。実施に当たっては、指導時間の設定、教員の研修、教材の提供などに課題があることが分かりました。

北 俊夫の「実践と研究」の足あと 13

全国各地から授業参観に

2校目に赴任した学校が社会科の研究校だったことは既に述べました。全国に先駆けた研究に取り組んでいたのでしょうか。思い出だけでも、鹿児島、長崎、香川、大阪、石川、富山、山形など、全国から授業参観に訪れる先生が後を絶ちませんでした。そのため、いつでも授業を公開できるように、気を休めることができませんでした。

6年の「戦国の世」の授業を公開したときです。参観し終わったあと、その先生から「今日の授業は、このあとのように展開していくのですか」と質問を受けました。私は予め考えていた指導計画の概要を説明しました。すると、「次の時間の社会科を参観できませんか」と聞いてきたのです。私には断る理由がありませんでしたので、「どうぞ。

結構ですよ」と答え、次の社会科の時間をお伝えしました。

こうしたやり取りはその後も続き、その先生は結局7時間扱いの小単元のすべての授業を参観されました。

ある参観日のことです。2校時に社会科授業を公開したあとのことです。参観した先生は「3校時は何の教科ですか」と聞いてきました。私は「時間割では国語です」と答えると、「国語の時間を参観させていただけないか」と求めてきたのです。私には断る理由が見当たりませんでしたので、「結構ですよ」と了解しました。その先生は「先生の授業は社会科も国語も同じですね」と感想を述べていました。

いつでも授業を公開できるように、常に緊張感を維持しながら日々の授業を実施することで、徐々に授業力をつけていったのではないかと思います。

INFORMATION

冬休みからの総しあげ教材

1年間の学習を
1冊で
まとめて復習!

※別冊つきは60円プラス



国語・算数のしあげ
これでだいじょうぶ

1・2年 380円
3~6年 400円



4教科 充実の復習ページ
パーフェクト〇年

もくじ
冬休みから学習
できる単元には
★マークつき

1・2年 440円
3・4年 490円
5・6年 540円

編集後記

「教育の小径」のすべてのバックナンバーを文溪堂のHPからお読みいただけます。ダウンロードして印刷も可能です。お知り合いの先生にもお勧めください。(F記)



ぶんけい 教育の小径 検索

企画・編集：ぶんけい教育研究所
発行：株式会社文溪堂
発行日：2020年11月1日